



# 最強

～真の強さを問い続け、  
進化する2年生～

## 篠島研修で得たもの



今年度の「篠島研修」では、2年生の素晴らしい姿を見ることができました。大きく3つ紹介します。

1つ目は、自分たちで考えて動き、係会などの自分の役割に責任をもつ姿です。班員が見通しをもって動けるよう、しおりの日程表を常に確認し、「次の〇〇に向けてこれを準備しておくといいね。」と声をかける班長。「荷物もってきてー。預かるよ。」と声をかけ、民宿の方の車に効率よく荷物を積み込む環境係。どの民宿でもテ

キパキと食事の準備ができていたのは、食事係の働きがあったからだと思います。保健係は、自作の健康チェック表を準備したり、水分補給の声かけをしたりし、班員の体調に気を配っていました。1年生の時の郡上研修の動きよりもさらに進んで動く姿が見られ、大きな成長を感じました。



2つ目は、普段は味わえない海辺での生活を十分に味わうことができていた姿です。師崎港に行くバスの中では、海が見えた瞬間「海だー」と歓声をあげたり、篠島の海岸で波が行ったり来たりするのを仲間と一緒に眺めたり、常に聞こえる波の音を味わっていました。（最初は、常に聞こえる波の音を車が往来する音だと思っていた子も多かったようです。）また、民宿で出される、海の幸を

使った料理のおいしさに感動し、調理場のおかみさんに「おいしかったです!」と感謝の気持ちを伝えるに行くクラスもありました。2年生の豊かな感性で篠島の自然を5感で味わっていました。

3つ目は、漁村で暮らす人々の思いを自分から知ろうとする姿です。1日目の夜に行われた「民宿の方と語る会」では事前に漁業や、漁村での仕事について調べる中で出てきた疑問やもっと知りたいと思ったことについて積極的に質問する姿がありました。「民宿の仕事のやりがいは何ですか?」の質問には、「朝早くから夜遅くまで、大変な仕事だけど、みんながさっき言ってくれたみたいに、泊まりに来てくれたお客さんから、おいしかった!また来たい!と言ってもらえるとまたがんばろうと思えるんだよ。」とこたえていただきました。職場体験に向けて、働く人たちの思いを知ることができ、貴重な経験になりました。

普段の学校生活でも、相手を思いやることのできる2年生です。2日間の篠島研修でも、その良さが生かされており、篠島の方や研修に関わっていただいたすべての人が「楽しい」と思える研修になりました。今後の「体育大会」「文化祭」でも大きく成長できることを期待しています。

